2017 年度 春季第 7 回

日時：6 月 28 日（水）17 時 00 分～
場所：自然系学系棟 B 棟 114 教室

地質学セミナー

埼玉県秩父郡小鹿野町に分布する山中白亜系石堂層の礫岩より産する微化石

発表者　大関仁智　（生物圏変遷科学分野 M2）

日本列島は基本的に沈み込み帯における堆積体の付加によって形成されており，ジュラ紀付加体が最も広く分布している．陸側へ押しやられた付加体は削剥され，やがて堆積盆へ供給される．一般に堆積物中の砕屑物は周囲の地質体より供給されており，その起源を検討することができる．そのため，手取層群をはじめとしたいくつかの白亜系中の砕屑物について，岩石学的，地球化学的視点から起源の議論が行われている．また，放散虫やコノドントといった微化石はそれらを含む付加体由来の珪質・泥質砕屑物の年代を決定することが可能なため，微化石年代を基にジュラ紀付加体の削剥開始時期の検討を行っている研究例もある．

山中白亜系は埼玉県西部から長野県東部にかけて分布し，西南日本外帯の汽水成～浅海成の前弧堆積物である．本層群の層序については多くの研究が行われているが，複雑な地質構造によって研究者ごとに異なる解釈が示されている（例えば，武井，1963；Matsukawa，1983；Ichise，2008）．一般的には武井（1963）の層序区分が受け入れられており，その層序は下位より下部白亜系の石堂層，瀬林層，上部白亜系の三山層としている．また山中白亜系の各層には秩父帯由来とされるチャートを含む礫岩層が認められており，Matsukawa（1983）や Takei（1985）による礫種および砕屑物の供給源の検討が行われているが，この礫岩について古生物学的な検討は行われていない．

今回，埼玉県秩父郡小鹿野町三山地区において地質調査を行い石堂層相当層の 5 層準でチャート礫を含む礫岩層が認められた（図 1）．フッ酸による酸処理の結果，緑色チャートより Spathian に対比される *Neostrachnognathus tahoensis* Koike の P_1 エレメントを含むコノドント化石が得られた（図 2）．

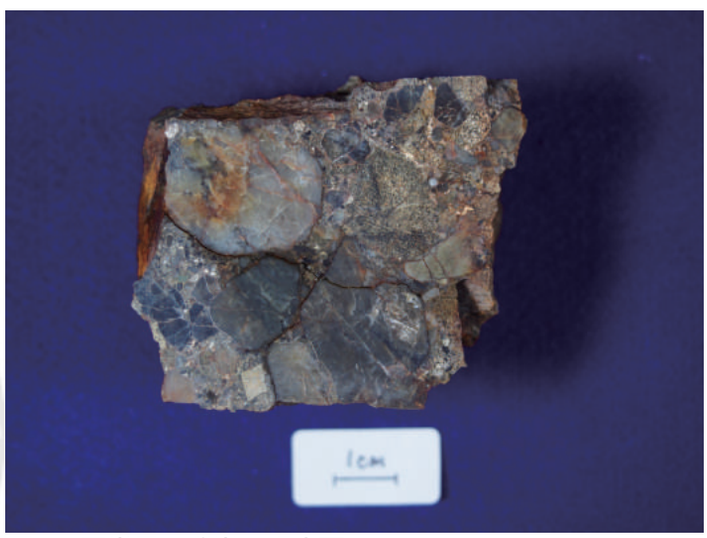

図 1　石堂層の礫岩の研磨面

図 2　*Neostrachnognathus tahoensis* Koike の SEM 画像

【次回予定】

日　時：2017 年 7 月 5 日（水） 17:00~

場　所：自然系学系棟 B114

発表者：松川滉明　（地球変動科学 M2）
山内夏隆　（地球史解析科学 M2）

連絡先：池端　慶（岩石学）
ikkei@geol.tsukuba.ac.jp
冨永　紘平　（地圏変遷科学）
tominaga_k@geol.tsukuba.ac.jp